

## 昭和35年色染卒—35会

2016年11月20日、9名の同窓生が集まり、嵯峨の料亭「らんざん」で、美しい庭を眺めながら会食を楽しみました。

1960年（S35年）卒は総勢32名、物故者10名、何らかの身体の不具合のあるもの5～6名、遠方に住んでいる等の理由で出席不可7～8名といった現状で、年齢80歳前後、まずは寄る歳波かというところですが、出席者各位は登山やゴルフを楽しんでいるとのことにて若々しく元気な面々でした。

当日は絶好の紅葉シーズンの週末とて、大変な人出でしたので、食後の散策は穴場にすべしとのことにて、雑踏の渡月橋を南に渡り、大堰川右岸を遡り、嵐山の切り立った岩肌に建っている千光寺に向かいました。ここまで来ると背後の雑踏は嘘のように静かで、参道の石段はいささか厳しいながら全員元気に登り着くことができました。

この寺院は京都の豪商、角倉了以（すみのくらりょうい）が、丹波から京都への水運として大堰川を開削するに当たり、大掛かりな工事で亡くなった人々を弔うために、嵯峨の中院にあった千光寺を移転し建立した観音堂です。境内にある大悲閣からは紅葉真っ盛りの嵐峡の絶景を見下ろし、また遥か東方には京都の町並みをはじめ、比叡山、大文字山、東山三十六峰を一望することができました。

まずは好天に恵まれ、佳景に心洗われる晩秋のひと時を楽しむことができました。

（色染昭35・松岡謙一郎）



前列：安部田、法貴、林、衛藤

後列：園田、松岡、中村、山田、鈴江



左より、鈴江、中村、安部田、衛藤、法貴、山田、松岡、園田、林



大堰川沿い千光寺への参道



千光寺から京都東山連峰を眺める  
左が比叡山、四明ヶ岳（しめがたけ）  
中央が大文字山、如意ガ岳



大堰川上流（屋形舟は千光寺への渡し舟）



千光寺から帰途の屋形舟にて  
衛藤、松岡、法貴、山田